



イオンモール株式会社

2010年
2月期

株主通信

(2009年2月21日～2010年2月20日)



イオンモール大和郡山

AEON
MALL

CONTENTS

トップインタビュー

揺るぎない収益基盤を築くため、
選ばれるショッピングセンターを追求 01

2009年度の取り組み 05

活性化事例
生まれ変わったイオンモール
むさし村山ミュー 07

2010年度の取り組み 09

2009年度
CSRへの取り組み 12

連結決算のご報告 13

株主コミュニケーション 17

会社概要 18

揺るぎない収益基盤を築くため、
選ばれるショッピングセンターを追求

当社は小売業に精通したショッピングセンター（SC）専門ディベロッパーのノウハウを発揮し、お客さまニーズに対応した地域一番の競争力あるSCづくりを推し進め、継続的な安定成長を実現しています。

2009年度（2010年2月期）は、個人消費が先行き不透明な状況で推移するなど厳しい事業環境となりましたが、地域、お客さま、専門店から選ばれるSCであり続けるための取り組みを加速させながら、事業基盤の強化・拡充に取り組んだ結果、当期純利益では過去最高益を確保しました。

配当金につきましては、株主の皆さまへの安定的な配当継続の方針に基づき、当期末における配当金は1株につき10円とし、第2四半期末の配当金10円と合わせた年間配当金を1株20円とさせていただきます。

今後も、激変する経営環境に迅速に対応し、厳しい環境下でも、持続的成長性と収益性を確保できる強固な事業基盤を構築してまいります。

この一年間を振り返って
いかがでしょうか？

村上: SC業界では、専門店企業のSC選別が一層厳しくなっていると実感しています。消費の低迷に金融機関の厳しい融資姿勢があいまって、専門店企業の多くが出店を抑制し、出店先を厳選し始めた結果、SC間の格差が顕著となり、SCディベロッパーの優勝劣敗がより鮮明になりつつあります。こうした状況の中、当社では経営資源配分の見直しを図り、当期の新規出店を2SC(前期4SC)に厳選する一方で、既存6SCの活性化を実施し、お客さまニーズに対応した地域一番の競争力のあるSCづく

りを推し進めました。新規SCとしては、4月にmozo wondercity(モゾ ワンダーシティ)(愛知県)、イオンモール広島祇園(広島県)をオープンしました。mozo wondercityは230店、イオンモール広島祇園は130店の専門店に出店していただいております、いずれも好調に推移しています。

既存SCでは、4月にイオンモールつがる柏(青森県)、イオンモール秋田(秋田県)、イオンモール三光(大分県)をリニューアル・オープンしました。また、9月にはイオンモール浜松志都呂(静岡県)、さらに11月には、イオンモールむさし村山ミュー(東京都)、イオンモール名取エアリ(宮城県)をリニューアル・オープンしました。

「厳しい消費環境の中、より多くのお客さまにご来店いただきました」

このうち、イオンモールむさし村山ミュー、イオンモール名取エアリは、百貨店が退店して株主の皆さま、地域のお客さまにご心配をおかけしましたが、これをチャンスと捉え、お客さまからご要望の高かった大型専門店を新たに導入し、売上、来店客数とも前期を大幅に上回って推移しています。

また、昨年12月に専門店企業と一体となって、全国的に実施した大規模セールでは大きな成果を上げ、12月度から2月度の第4四半期3カ月間では、既存SCの専門店売上は前期比1.4%増、来店客数は前期比6.4%増となりました。なお、来店客数については、年間でも前期を2.6%上回っています。

中国事業につきましては、2008年11月にオープンしたイオン北京国際商城SCに昨年9月、シネマコンプレックスを導入したこともあり、売上が大きく伸びています。今年秋には天津市に2号店のオープンを予定しており、建築に着手しました。

以上のように、増収増益をめざしてさまざまな施策に取り組んだ結果、当期の連結の営業収益は1,389億円(前期比6.2%増)となりました。営業利益は、372億円(同1.8%減)となりましたが、当期純利益は218億円(同2.0%増)と過去

最高益を確保しました。また1株当たり当期純利益は120.41円(前期118.09円)となりました。

集客力を維持している理由を どのようにお考えですか？

村上: ディベロッパーの最大の責務は集客力です。厳しい環境下でも当社SCの来店客数が着実に増加し、多くのお客さまにご利用いただいている理由は、当社のSCづくりのコンセプトにあると考えています。

当社がSC開発において重視しているのは4つの機能です。1つ目はショッピングで、お買い物や食事を楽しむという基本的な機能です。2つ目は、映画などのエンターテインメント、お客さまに楽しく過ごしていただく機能です。そして、3つ目はコミュニティ機能で、病院や行政サービスを導入していることに加え、多目的ホールであるイオンホールを確定申告会場、成人式などにもご利用いただいています。4つ目は、エコロジー(CSR)です。環境への配慮やユニバーサルデザインを積極的に導入しています。これら4つの機能によるワンストップソリューションを「お客さま第一」の視点で進化させていることが、地域で当社SCがご支持をいただいている最大の要因です。

さらには、魅力のある専門店導入や発掘・育成も集客力強化のポイントです。お客さまの支持の高い旬のブランドや根強い人気の地元店などの誘致を積極的に行っており、最近では、有力なファストファッション専門店の導入を進めています。また、当社SCへの出店を契機に飛躍的に成長している専門店企業も数多くあります。

今後の成長プランについて お聞かせください。

村上: 引き続き、国内で新規SCを安定的に出店していきます。2010年度(2011年2月期)は3月にイオンモール新瑞橋(愛知県)、イオンモール大和郡山(奈良県)をオープンし、大変好調なスタートを切りました。そして6月には、民間都市再生事業「(仮称)京都駅南開発計画」の中核となるイオンモールKYOTO(京都府)がオープンします。京都駅八条口近くに位置し、商業施設面積では京都府下で最大級のSCとなります。同SCは、商業施設のコンセプトの企画・専門店誘致・オープン後の運営管理を行うプロパティ・マネジメント(PM)事業としての取り組みであり、今後はPM事業についても受託物件の確保に努め、国内事業での拠点拡大を図っていきます。

既存SCでは、リニューアルをこれまで以上に積極的に進めます。2010年度は、当初計画の2倍となる12SCの活性化を

実施する計画で、すでにイオンモール広島府中ソレイユ(広島県)やイオンモール太田(群馬県)などがリニューアル・オープンし、お客さまの高いご支持をいただいております。また、専門店サポートや顧客満足度向上への取り組みを一層強化して集客力を高め、SCの売上を拡大するとともに、運営コストの削減を推し進め、SCの収益性を高めていきます。

新たな収益源の確立をめざして進めている中国でのSC事業については、イオンモール天津TEDA SCの今秋オープンの成功に注力します。さらには、新規物件開発の促進、多店舗展開を実現できる体制づくりにも取り組みます。

以上の取り組みを「お客さま」視点、「現場」視点で迅速に進めていくため、組織体制・人事諸制度などの改革、人材の確保・育成を図りつつ、ガバナンス機能を強化し、迅速な意思決定による競争力の向上を推し進めていきます。

当社では、2010年度を“新たな飛躍に向けた変革の年”と位置付けています。連結での営業収益1,470億円(当期比5.8%増)、営業利益400億円(同7.5%増)、経常利益380億円(同5.0%増)、当期純利益220億円(同0.9%増)の達成に向け、着実な取り組みを進めてまいります。

事業基盤の着実な拡大

2009年度の取り組み

新規SC

mozo wondercity(愛知県)は、既存の施設をスクラップ&ビルドして、2倍の規模の面積でオープン。名古屋初出店となる62の専門店を含め、旧店の約3倍となる230店の専門店を誘致しています。SCの売上は大変好調に推移し、当社トップクラスの売上を創出するSCとなっています。

イオンモール広島祇園(広島県)は、地域の活性化を目的に三菱重工業(株)広島工場跡地の有効活用事業としてオープン。広島市最大のベッドタウンに位置し、公共交通機関・車のアクセスに恵まれた立地です。地域密着型のSCづくりを推し進め、想定以上に広い地域からお客さまにご来店いただき、順調に推移しています。

イオンモール広島祇園



PM事業 mozo wondercityは、土地・建物を三菱商事(株)が所有しており、当社はPM事業として取り組んでいます。自社開発では、数百億円の投資が必要となりますが、スクラップ&ビルドを他社と協業して実施することにより、投資負担が無く、SCのコンセプト企画・専門店誘致、オープン後の運営などの役務の対価として、安定的な収益を得ています。

また、東日本旅客鉄道(株)から受託した土浦駅ターミナル駅ビル(旧:WING)を全面リニューアルし、ペルチ土浦(茨城県)として7月にオープンしました。

mozo
wondercity

開店日: 2009年4月21日
敷地面積: 約107,000㎡
総賃貸面積: 約85,000㎡

専門店数: 約230店舗
駐車台数: 5,000台

イオンモール 広島祇園

開店日: 2009年4月29日
敷地面積: 約135,000㎡
商業施設面積: 約57,000㎡
専門店数: 約130店舗
駐車台数: 約2,800台

既存SCの活性化

イオンモール秋田(秋田県)では、2008年10月に退店した地元百貨店跡を専門店ゾーン「ウエストモール」に刷新、イオンモールつがる柏(青森県)・イオンモール三光(大分県)では核店舗・準核店舗の面積縮小に伴い、専門店ゾーンを拡大。この3SCは4月にリニューアル・オープンしました。

また、9月にはイオンモール浜松志都呂(静岡県)にファミリー層を中心とした8つの専門店を導入しました。さらに、百貨店が退店したイオンモールむさし村山ミュー(東京都)では、退店区画に大型専門店を9月より順次導入、同様にイオンモール名取エアリ(宮城県)でも大型専門店導入を中心としたリニューアルを11月に行いました。

中国事業

中国事業1号店としてオープンしたイオン北京国際商城SCに、2009年9月にシネマコンプレックスを導入しました。北京市内にある映画館の2009年興業収入ランキングでは、わずか4カ月で38位となっており、2010年は通年稼働でランキング上位も狙えるものと見込んでいます。中国では類を見ない郊外型商業施設としてメディアで取り上げられる機会も増え、好調に推移しています。SC前には年内に開通する北京市内からの地下鉄の駅が新設される他、SC周辺の住宅開発も進んでおり、さらなる客数増加が期待されています。

イオン北京国際商城SC: 2008年11月オープン

2009年3月、核店舗のひとつである百貨店が退店したイオンモールむさし村山ミュー（東京都）では、同年秋にその跡区画へ新しい大型専門店を導入。あわせて同区画以外にも話題性のある新規専門店をオープンさせるなど、大幅なリニューアルでSCの活性化を図りました。

核店舗退店をチャンスに変えた、その取り組みと生まれ変わった姿をご紹介します。



活性化事例

生まれ変わったイオンモール むさし村山ミュー

イメージの刷新を軸に リニューアルに着手

今回のリニューアルでは、大きな課題がふたつありました。ひとつ目は「百貨店退店でマイナスイメージをいかに払拭するか」です。「実際には集客、売上とも、決して悪い状況ではありませんでしたが、お客さまからはSCの今後を心配する声をいただくようになりました」(山菅貴史ゼネラルマネージャー)。

打開策として取り組んだのは、時代にマッチした専門店

を誘致し、お客さまから見て、「生まれ変わった」と感じていただけるSC活性化です。そのために、もっとも旬であるファストファッションのなかでも高感度なスタイル提案で、幅広い世代から高い支持を得ている「H&M」の誘致を図りました。国内で店舗展開が少ないことも、鮮度訴求につながる好材料と判断したのです。

「H&M」の導入は既存専門店から好意的に受け止められ、さまざまな専門店企業からも出店希望が寄せられ始めまし

た。さらには、既存の「ZARA」「GAP」と合わせて、世界三大アパレルが揃う日本初のSCとして、大いに注目を集めることにもなりました。

お客さまの要望の 多い専門店を導入

ふたつ目の課題は「ファミリーを対象とした専門店を充実させること」。

主な客層はファミリー層でしたが、これまではファッション専門店が多く、不足して

いる業種があったのですが、今回のリニューアルを機に専門店構成を見直し、お客さまからの要望の多かった総合スポーツ用品専門店として「Victoria」を、大型家電専門店としては「ノジマ」を導入。さらには、百貨店退店によって

欠けてしまった食品部門には輸入食品店「カルディコーヒーファーム」を、紳士服部門にはスタイリッシュブランドの「ORIHICA」を導入しました。「衣・食・住の魅力的な専門店をしっかりと組み込んだことで、お客さまの購買機会を

広げられ、来店客数は2桁増加し、来店頻度向上につながっています。お客さま導線も変わり、専門店からは満足の声をいただいています」(山菅GM)。



さらなる収益向上に向けて

2010年度の取り組み



イオンモール新瑞橋

開店日：2010年3月9日
敷地面積：約53,000㎡
店舗面積：約24,000㎡
事業用面積：約4,800㎡
専門店舗数：約130店舗
駐車場台数：約1,600台



イオンモール大和郡山

開店日：2010年3月25日
敷地面積：約166,000㎡
店舗面積：約64,000㎡
事業用面積：約10,300㎡
専門店舗数：約170店舗
駐車場台数：約4,200台

さまざまな立地でお客さまニーズに対応したSC開発を促進するとともに、既存SCの質を高めていくことが、当社成長の重要なファクターです。

2010年度は国内で新規3SCのオープン、既存12SCの活性化を実施するとともに、中国では天津市に新規SCをオープンします。

新規SC

イオンモール新瑞橋(愛知県)

サティと約130店の専門店で構成されています。名鉄本線などの3駅から400メートルの距離にあり、公共交通機関の利便性と、密度の高い住宅集積に恵まれています。これまで当社が開発を行ってきた2核1モールの大型SCとは異なり、規模が小ぶりですが、駅・住宅地近隣に立地し、地元に着した都市型のSCとして開発したものです。

イオンモール大和郡山(奈良県)

ジャスコと約170店の専門店で構成されています。県内自動車交通の大動脈である国道24号に面し、京奈和自動車道や西名阪自動車道も5km圏と、広域からの道路アクセスに恵まれた立地です。交通問題に対応するため、これまでの当社の開発ノウハウをもとに、行政とも協議しながらSC周辺での道路や信号機の新設など、道路網を整備し、行政と一体となったSCづくりを進めています。

イオンモールKYOTO(京都府)

民間都市再生事業である「(仮称)京都駅南開発計画」の中核となるSCで、京都駅八条口近くに位置します。清水建設(株)が建設し、昨年11月に当社が同社よりPMを受託しました。ジェイアール京都伊勢丹を中心とした京都駅ビルなど周辺商業施設との連動も図りながら、当社初の大都市駅前立地のSCとして、京都の駅前の顔にふさわしいSCづくりに取り組んでいます。



イオンモールKYOTO

開店日：2010年6月4日
敷地面積：約30,100㎡
総賃貸面積：約51,000㎡
専門店舗数：約130店舗
(写真は開業前)

既存SCの活性化

既存SCのリニューアル・増床は、専門店との6年の定期建物賃貸借契約満了時に実施することを基本としています。2010年度は、この契約満了を迎えるSCが7つあり、それらを含め12SCの活性化を計画。合計で300を超える専門家を新規に導入するとともに、既存専門店約350の改装・移動を行っていきます。

中国事業

2010年秋に、天津市にイオンモール天津TEDA SCをオープンします。同SCが出店する天津経済技術地区(TEDA)は、天津市の沿岸部に位置しており、中国経済発展の拠点として上海を上回る国家開発プロジェクトとして位置付けられています。シネマをはじめ、専門店は約8割以上の区画が決まっており、イオン北京国際商城SCで蓄積したノウハウを活用し、中国における事業展開の礎を築いていきます。



イオンモール天津TEDA SC(イメージ図)

2010年度 既存SCの活性化計画

イオンモール東浦(愛知県知多郡東浦町)

当社初となる結婚式場を3月14日に導入するとともに、ブライダル関連の専門店およびカルチャー関連の教室を展開

イオンモール広島府中ソレイユ(広島県安芸郡府中町)

リニューアル・オープン 第1弾 2010年3月19日

第2弾 2010年4月23日

専門店数191店舗(新規35店舗、移動・改装40店舗)

イオンモール太田(群馬県太田市)

ホームセンター(2009年12月退店)跡区画を専門店ゾーンに変更。

リニューアル・オープン 2010年4月23日

専門店数170店舗(新規26店舗、移動・改装23店舗)

イオンモール榎原アルル(奈良県榎原市)

リニューアル・オープン 第1弾 2010年3月12日

第2弾 2010年4月27日

専門店数240店舗(新規19店舗、移動・改装32店舗)

イオンモール草津(滋賀県草津市)

4月28日、スポーツ&レジャー棟に温浴施設をオープン

イオンモール京都ハナ(京都府京都市)

専門店の移動・改装を中心にリニューアルを実施

リニューアル・オープン 第1弾 2010年3月19日

第2弾 2010年4月28日

第3弾 2010年6月18日

専門店数143店舗(新規34店舗、移動・改装62店舗)

イオンモール新居浜(愛媛県新居浜市)

2010年秋オープン(全館リニューアル・2011年春オープン)

敷地面積:約128,000㎡(内 増床敷地面積 約17,000㎡)

店舗面積:約47,000㎡(内 増床棟面積 約9,000㎡)

増床棟店舗数:約30店舗

駐車台数:約3,400台(内 増床敷地台数 約550台)

その他5SCの活性化

CO₂排出量削減を推進しています。

イオンモールでは環境保全活動において、SC全体で排出するCO₂の削減に注力し、2009年度もさまざまな取り組みを行いました。

そのひとつが自然エネルギーの積極的な活用です。当期は既存6SCに太陽光発電を導入し、さらなる省エネルギー化を進めるとともに、館内に発電状況とCO₂削減量がわかるパネルを設置するなど、より多くのお客さまに自然エネルギーへの関心を持っていただけるよう努めました。

その他、設備の運転管理技術の改善などに取り組んだ結果、SC共用部分の面積は2006年度と比較して約3割増加したものの、CO₂排出総量の増加は1%未満に抑えることができました。

また、イオンモール倉敷(岡山県)では、最新の電気自動車を社用車として導入しました。これは岡山県ならびに倉敷市が進める電気自動車の普及活動に賛同したもので、日常の社用のほか、広く地域の皆さまに知っていただくことを目的に、市内の福祉施設・デイサービス・養護学校・子育て支援センターなどを定期的に訪問する団体に利用していただいています。



お客さまに電気自動車を身近に感じていただけるよう、普段はSCで展示

CSR TOPICS

イオンモール草津が「サステナブル建築賞」を受賞

CASBEE(建築物総合環境性能評価システム)で最高のSランク(設計段階)を取得しているイオンモール草津(滋賀県)が(財)建築環境・省エネルギー機構より、「サステナブル建築賞」を受賞しました。同賞は、環境負荷低減・省エネルギーに顕著な成果を上げ、その普及効果が期待される建築物を表彰するもので、商業施設としては初の受賞となります。



当社SCで最大の2,000㎡のソーラーパネルを設置

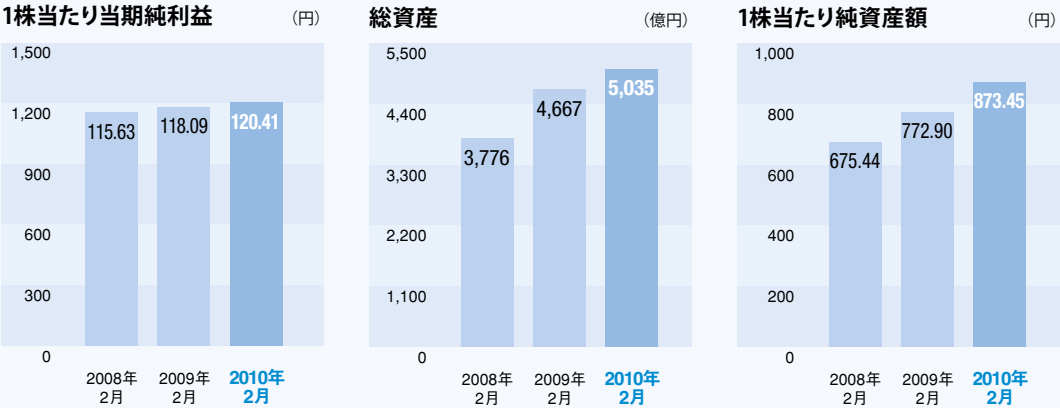
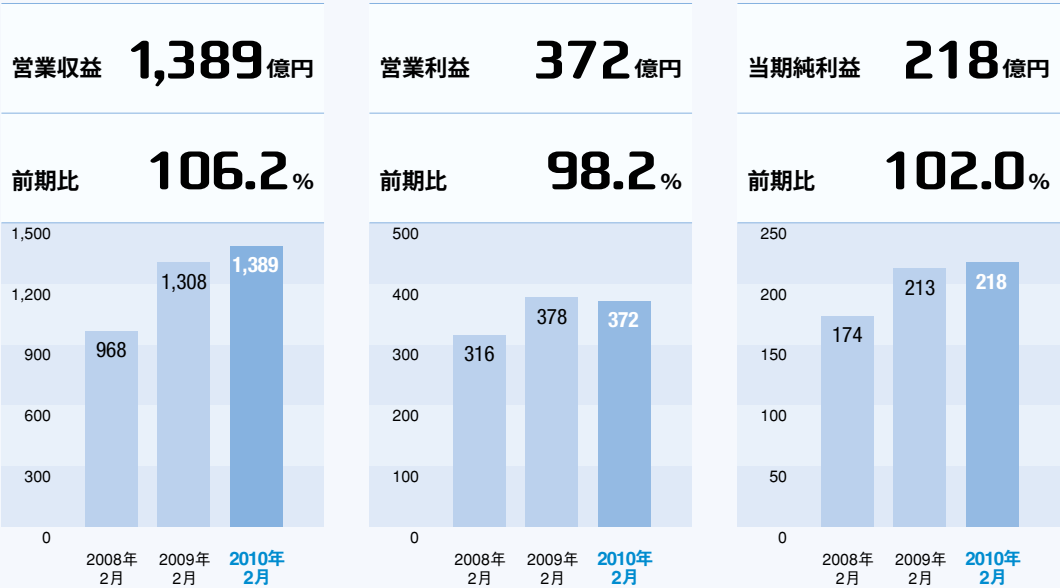
アジア地区での学校建設支援



バンサイスクールでの開校式(2010年3月:ラオス)

イオングループでは、イオン1%クラブを通じて教育施設の充実が必要なアジア地域の学校建設を、(財)日本ユニセフ協会とのパートナーシップのもと支援し、過去7年間、カンボジア、ネパール、ラオスといった国々で300校以上を開校しています。イオンモールでは、イオン1%クラブに税引前利益の1%を拠出するとともに、各SCでの募金活動を継続的に実施し、お客さま、SC専門店従業員の皆さまの多大なご協力のもと、同活動を支援しています。

2009年度
CSRへの
取り組み



連結損益計算書

(単位：百万円)

	前 期 自2008年2月21日 至2009年2月20日	当 期 自2009年2月21日 至2010年2月20日
営業収益	130,813	138,942
営業原価	82,416	91,689
営業総利益	48,396	47,253
販売費及び一般管理費	10,526	10,051
営業利益	37,870	37,201
営業外収益	1,629	2,548
営業外費用	2,493	3,554
経常利益	37,006	36,195
特別利益	1,334	3,083
特別損失	2,719	2,010
税金等調整前当期純利益	35,622	37,268
法人税、住民税及び事業税	13,556	13,393
法人税等調整額	604	1,989
少数株主利益	71	75
当期純利益	21,390	21,809

POINT 経営成績

当期の営業収益は、既存店ベース(45SC)の不動産賃貸収入1,244億円に加え、新規SC(前期4SC、当期2SC)などの不動産賃貸収入145億円の寄与もあり、1,389億円となりました。

営業総利益は、新規SCによる利益増加の一方、既存SCの営業収益減少や、リニューアル・オープンに向けた工事などによる営業機会ロスなどにより、472億円、営業利益は、業務の効率化や経費構造の改善に取り組み、販売費及び一般管理費を削減した結果、372億円となりました。

経常利益は、営業外収益が25億円、営業外費用が35億円となりました結果、361億円となりました。

特別損益では、特別利益として核店舗受取退店違約金など30億円、特別損失として既存SC活性化に伴う固定資産除却損など20億円を計上いたしました。

これらの結果、当期純利益は218億円となりました。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前 期 2009年2月20日現在	当 期 2010年2月20日現在
資産の部		
流動資産	24,499	54,374
固定資産	442,219	449,172
有形固定資産	358,504	365,612
無形固定資産	2,162	2,243
投資その他の資産	81,552	81,316
① 資産合計	466,718	503,546
負債の部		
流動負債	139,179	100,730
固定負債	187,035	244,000
② 負債合計	326,214	344,730
純資産の部		
株主資本	139,846	158,039
資本金	16,662	16,666
資本剰余金	16,971	16,975
利益剰余金	106,234	124,420
自己株式	△22	△23
評価・換算差額等	141	162
新株予約権	55	83
少数株主持分	460	530
③ 純資産合計	140,503	158,816
負債・純資産合計	466,718	503,546

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前 期 自2008年2月21日 至2009年2月20日	当 期 自2009年2月21日 至2010年2月20日
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー	26,655	72,001
⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△63,908	△75,877
⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー	38,180	37,687
現金及び現金同等物に係る換算差額	△11	△6
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	917	33,805
現金及び現金同等物の期首残高	3,199	4,092
分割に伴う現金及び現金同等物	△23	—
現金及び現金同等物の期末残高	4,092	37,898

POINT 財政状態

- ① 資産
当期末における総資産は、前期末と比較して368億円増加の5,035億円となりました。これは新規SCのオープン、既存SCのリニューアル及び今後オープンを計画しているSCへの投資により有形固定資産が増加したことなどによるものです。
- ② 負債
当期末における負債は、前期末と比較して185億円増加の3,447億円となりました。これは前期の新規SCのオープン及び既存SCの大型増床による設備関係支払手形が減少するとともに、短期借入金及びコマーシャル・ペーパー180億円、長期借入金255億円を返済する一方で、長期借入金619億円、社債230億円による資金調達、専門店売上金の預り金について返還日である当期末が金融機関の休業日であったことから増加したことなどによるものです。
- ③ 純資産
当期末における純資産は、前期末と比較して183億増加の1,588億円となりました。これは利益剰余金が増加したことなどによるものです。
- ④ 営業活動によるキャッシュ・フロー
営業活動によるキャッシュ・フローは、720億円となりました。これは、税金等調整前当期純利益、減価償却費が増加したことに加え、専門店預り金が増加したことなどによるものです。
- ⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動によるキャッシュ・フローは、758億円となりました。これは、前期にオープンした新規4SC及び既存2SCの増床、当期にオープンしたイオンモール広島祇園の有形固定資産の取得などによるものです。
- ⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー
財務活動によるキャッシュ・フローは、376億円となりました。これは、当期において、長期借入金619億円、社債の発行により230億円を調達する一方で、長期借入金返済255億円、短期借入金及びコマーシャル・ペーパーの純減少額180億円、配当金支払額36億円となったことなどによるものです。

株主優待のお知らせ

■対象株主さま

毎年2月20日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載された株主さまについて、実施しています。

実施対象は、1単元(100株)以上の株式を保有されている株主さまです。

〈優待制度〉

- 100株～500株未満 3,000円相当のご優待商品
- 500株～1,000株未満 5,000円相当のご優待商品
- 1,000株以上 10,000円相当のご優待商品

詳細については、2010年6月下旬に送付する優待品選択に関するご案内をご覧ください。

●ご優待商品

3つのコースからひとつを選択していただけます。

- ①「イオンギフトカード」
- ②「カタログギフト」
- ③「カーボンオフセットサービス」※

※このサービスを選択されますと、相当額分の二酸化炭素排出権を一般社団法人「日本カーボンオフセット」(<http://www.co-j.jp/home/>)を通じて取得し、日本の償却口座に無償で移転することで、日本の京都議定書の目標達成に貢献します。

〈ご報告〉2009年2月期の実績では、23名の方よりご選択いただき19トン分の二酸化炭素排出権を取得いたしました。



株式の状況 (2010年2月20日現在)

発行可能株式総数.....320,000,000株
発行済株式の総数.....181,130,207株
株主数.....10,770名

所有者別株式分布状況 (2010年2月20日現在)



大株主(上位11名) (2010年2月20日現在)

	持株数(千株)	持株比率(%)
イオン株式会社	101,057	55.79
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	3,677	2.03
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,999	1.65
メロン バンク エヌエー アズ エージェント フォー イッツ クライアント メロン オムニバス ユーエス ペンション	2,878	1.58
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,172	1.19
バンク オブ ニューヨーク タックス トリイティ ジャスデツク オムニバス ツー	1,905	1.05
サジャツブ	1,799	0.99
東京海上日動火災保険株式会社	1,683	0.92
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	1,545	0.85
みずほ信託銀行株式会社	1,439	0.79
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (中央三井アセット信託銀行再信託分・CMTBエクイティインベストメンツ株式会社信託口)	1,439	0.79

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しています。
2. 持株比率は、自己株式(8,210株)を控除して計算し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

会社概要 (2010年2月20日現在)

社 名 イオンモール株式会社
英 文 社 名 AEON MALL CO.,LTD.
設 立 1911(明治44)年11月
資 本 金 166億6千6百万円
本社所在地 千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
従 業 員 数 646名

取締役・監査役 (2010年5月12日現在)

取締役会長	豊島 正明	取締役	相馬 勝
代表取締役社長	村上 教行	取締役	岩本 博
専務取締役	山中 千敏	取締役	村井 正人
専務取締役	平林 秀博	取締役	河原 健次
常務取締役	小西 幸夫	取締役	藤原 雄三
常務取締役	岩本 馨	常勤監査役	横井 賢*
取締役相談役	岡田 元也	監査役	林 有恒*
取締役	高橋 富士夫	監査役	岡崎 隆夫
取締役	寺澤 洋一	監査役	千葉 清一*

*社外監査役

株主メモ

事業年度 2月21日から翌年の2月20日まで
基準日 2月20日(その他必要がある場合には、あらかじめ公告いたします。)
定時株主総会 5月(ただし20日までに開催)
単元株式数 100株
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
電話0120-288-324(フリーダイヤル)
お問い合わせ先 イオンモール株式会社
管理本部 総務部
〒261-8539
千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
電話043-212-6463
ホームページ <http://www.aeonmall.com/>
公告方法 電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることが出来ない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載 <http://www.aeonmall.com/>

ホームページのご紹介

投資家の皆さまへの情報はホームページでもご覧になれます。

<http://www.aeonmall.com/>から、「投資家の皆さまへ」をクリックしてください。



イオンモールはホームページで様々な情報を発信しています。
株主さま、投資家の皆さまへのコミットメントを含む、社長からのご挨拶を掲載しています。

- 未払配当金のお支払い、支払明細の発行
みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。
- 住所変更、単元未満株式の買増・買取請求、口座振替、配当金受取方法の指定など
【証券会社に口座をお持ちの株主さま】
お取引の証券会社にお問い合わせください。
【特別口座の株主さま(証券会社に口座をお持ちでない株主さま)】
みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。
- お問い合わせ先
〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-288-324(フリーダイヤル)

Our Vision

私たちの理念・ビジョン・事業

基本理念

お客さま第一

- 1 企画・開発・建設・リーシング・運営までの一貫したモールビジネスにおいての顧客は「地域のお客さま」です。
- 2 テナントスタッフを始め、清掃・警備やメンテナンスなどモール(SC)にかかわるすべてのパートナーとともに、「お客さま第一」の価値観を共有することが当社とパートナーの発展につながります。
- 3 お客さまの期待に応え、更なる期待を得、またそれに応えるという価値の連鎖により、持続的な発展があります。

経営理念

イオンモールは、「輝きのあるまちづくり」を目指します。

私たちは、パートナーとともに、輝きのあるまちを創造し、地域で生活する人々の、より彩りあるくらしの実現に貢献し続けます。

「輝きのあるまち」とは

私たちが創る「驚き、感動、喜び」のある生活拠点によって魅力あふれる新しい生活があるまちのことを指します。

「パートナー」とは

地域社会、行政、NPO、テナント企業、協力企業、地権者、投資家など、まちづくりにかわるすべての人を指します。

コーポレートメッセージ



ひとと、まちも、きらきら。

イオンモール株式会社

〒261-8539 千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1 イオンタワービル7階

TEL 043-212-6450 FAX 043-212-6736

投資家の皆さまへの情報はホームページでもご覧になれます。

<http://www.aeonmall.com/>



このリーフレットは環境対応大豆油使用インキを使用しています。

